

## ○災害派遣医療チーム（DMAT）について

実際に広域医療搬送が行われた場合に重要な役割を果たすことになる災害派遣医療チーム（DMAT）とは、災害現場で救命措置等に対応できる機動性を備え、専門的なトレーニングを受けた医療チーム（医師，看護師，業務調整員）のことです。（DMATはDisaster Medical Assistance Teamの略）

大規模災害発生時において災害派遣医療チーム（DMAT）は、迅速に被災地へ入り、以下の活動などを実施することが期待されています。

- (1) 災害現場における医療活動（がれきの下の医療、トリアージ、応急処置等）
- (2) 広域医療搬送
- (3) 被災地の病院支援

災害派遣医療チーム（DMAT）の養成については、平成16年度末（平成17年3月）から独立行政法人国立病院機構災害医療センター（立川市）で厚生労働省からの研修委託を受けて、災害派遣医療チーム（DMAT）研修事業がスタートしています。平成18年11月末現在195病院が研修を修了しています。

DMAT研修事業がスタートしたことを踏まえ、平成17年7月26日の中央防災会議における防災基本計画の修正の際には、防災基本計画の自然災害対策の各編において、広域災害における救急・医療体制の整備及び災害派遣医療チーム（DMAT）の充実・活用推進が盛り込まれることになりました。

具体的には、

- (1) 国は、災害発生時に迅速な派遣が可能な災害医療チーム（DMAT）に参加する、医師、看護師等に対する教育研修を推進するものとする。
- (2) 国〔厚生労働省，文部科学省〕，日本赤十字社及び被災地域外の地方公共団体は，医師を確保し救護班・災害派遣医療チーム（DMAT）を編成するとともに，必要に応じて，公的医療機関・民間医療機関からの救護班・災害派遣医療チーム（DMAT）の派遣を要請するものとする。

という記述に修正され（アンダーライン部分が追加）、防災基本計画の中にもDMATが記載されることになり、災害対応の中での位置づけが明確化されることとなりました。